

## ⑫ 公開実用新案公報(U)

平4-7476

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>  
B 65 D 83/00

識別記号 庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)1月23日

9036-3E B 65 D 83/00

E

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全3頁)

⑮ 考案の名称 流動物押出容器

⑯ 実 願 平2-46123

⑰ 出 願 平2(1990)4月27日

⑱ 考 案 者 丸 田 厚 静岡県静岡市弥生町648番地 ポーラ化成工業株式会社内  
 ⑱ 考 案 者 土 田 治 夫 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会社吉野工業所内  
 ⑲ 出 願 人 ポーラ化成工業株式会 静岡県静岡市弥生町648番地  
 社  
 ⑲ 出 願 人 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3丁目2番6号  
 ⑲ 代 理 人 弁理士 佐藤 宗徳 外2名

## ⑳ 実用新案登録請求の範囲

(1) 円筒状の容器本体1を設け、この容器本体1内には、半径方向に延びる隔壁13を設け、この隔壁13は、容器本体1の周壁2及び底板11と接続して設けると共に、内端14が容器本体1の中心部近くに達するようにして設け、そして、容器本体1には、回動蓋20を、下面が前記隔壁13の上端15に接するようにして回動可能に嵌着し、この回動蓋20には、回動方向に間隔を置いて吐出口30と吸気口31を設け、この吐出口30と吸気口31には、内外の圧力差で開口するように形成した吐出弁35と吸気弁36を装着し、さらに、回動蓋20の中心部から垂下して回動軸45を設けると共に、この回動軸45の外周面を前記隔壁13の内端14に接して設け、そして、前記回動蓋20には、前記吐出口30と吸気口31の間を、半径方向に延びる押圧隔板46を設け、この押圧隔板46は、回動蓋20の下面及び回動軸45と接続して設けると共に、外端48を前記周壁2に接し、下端47を前記底板11に接して設けた流動物押出容器。

(2) 弾力性を有する板状部39に、スリット40を設け、このスリット40を内外の圧力差で開口するように形成して、吐出弁30と吸気弁31とした請求項1記載の流動物押出容器。

(3) 容器本体1の周壁2の上部外周と、回動蓋2

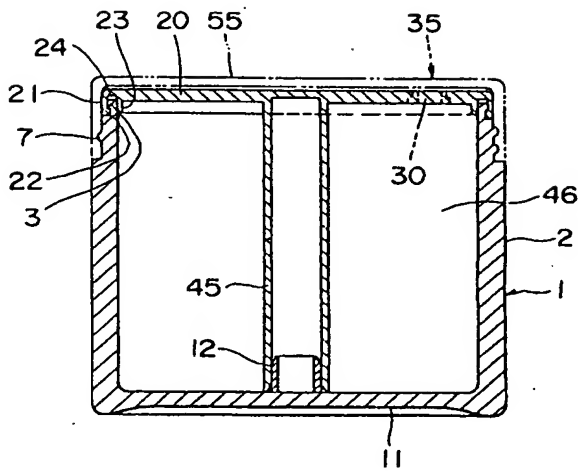
0の嵌合用筒部21のいずれか一方に、弾力性を有する環状の摺接用舌片6を設け、この摺接用舌片6を、いずれか他方の嵌合用筒部21又は周壁2に回動可能に接触させた請求項1又は請求項2に記載した流動物押出容器。

## 図面の簡単な説明

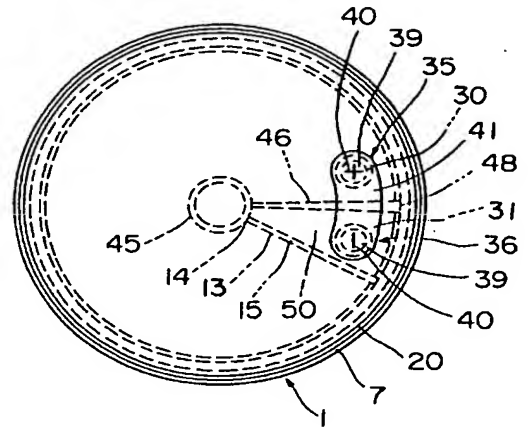
第1図ないし第4図は本考案の一実施例の流動物押出容器の説明用の図で、第1図は断面図、第2図は平面図、第3図は吐出弁と吸気弁の斜視図、第4図はその要部の断面図、第5図・第6図は吐出弁と吸気弁の別の実施例を示すもので、第5図は平面図、第6図は要部の断面図、第7図は周壁の上部と回動蓋の嵌着部の別の実施例を示す断面図、第8図は周壁の上部と回動蓋の嵌着部の他の実施例を示す断面図、第9図・第10図は本考案の別の実施例の流動物押出容器の説明用の図で、第9図は分解斜視図、第10図は平面図、第11図は従来例を分解し一部断面とした図、第12図はその回動蓋の平面図である。

1……容器本体、2……周壁、6……摺接用舌片、11……底板、13……隔壁、14……内端、15……上端、20……回動蓋、21……嵌合用筒部、30……吐出口、31……吸気口、35……吐出弁、36……吸気弁、39……板状部、40……スリット、45……回動軸、46……押圧隔板、47……下端、48……外端。

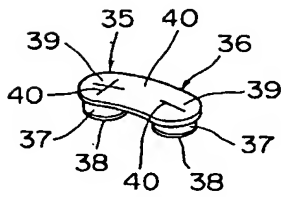
第 1 図



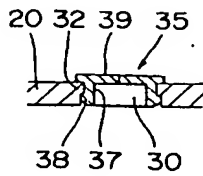
第 2 図



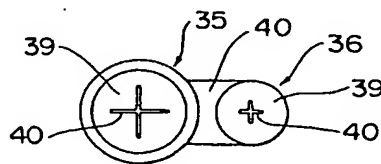
第 3 図



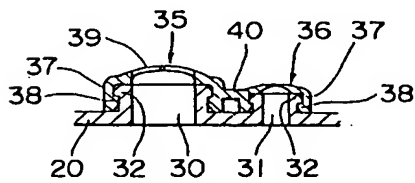
第 4 図



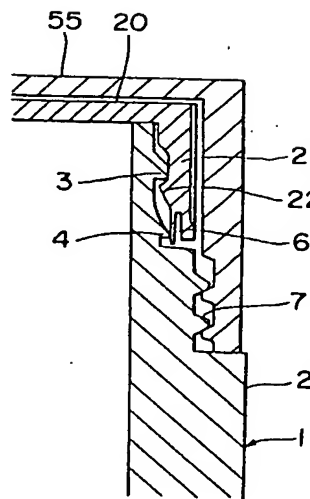
第 5 図



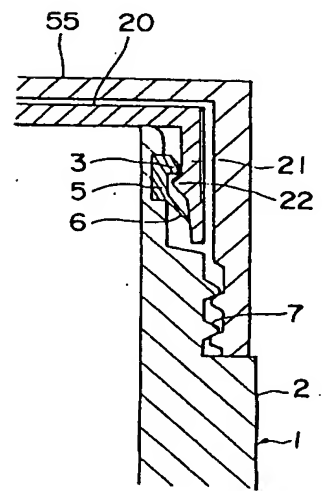
第 6 図



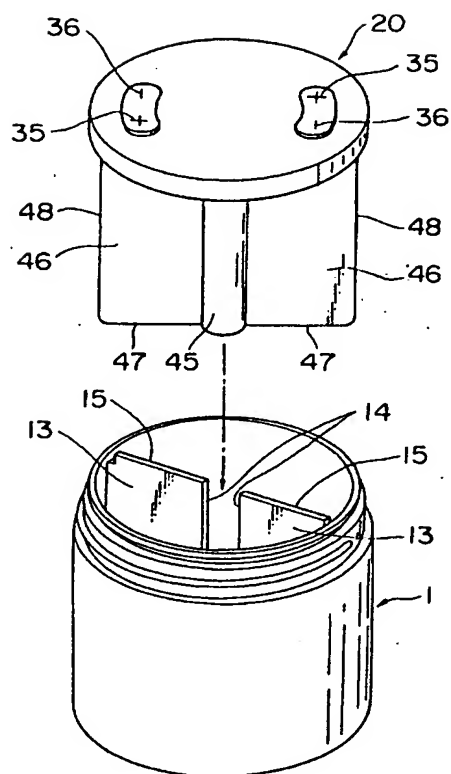
第 7 図



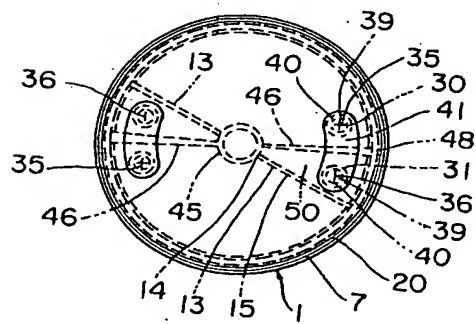
第 8 図



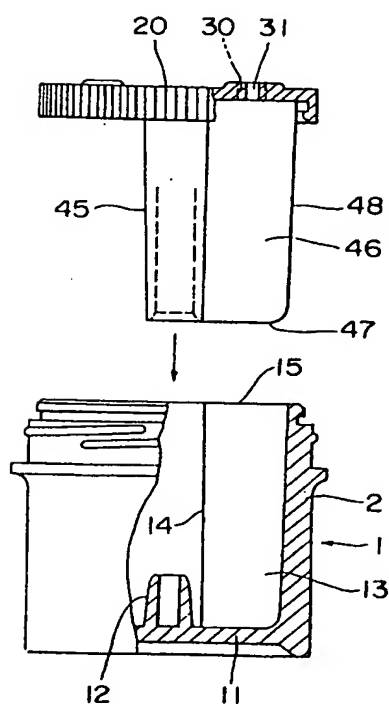
第 9 図



第 10 図



第 11 図



第 12 図

